



The Association of Liquid Filtration and Purification Industry

LFPI News Letter

Autumn 2021 No.97

在り方



私たちは今、大きな試練の中を歩き続けています。

一昨年後半から始まったコロナウイルス感染症は、感染症という病の怖さだけでなく、人々の心の中に年齢性別を問わず様々な負の影響を与えています。

また世界を見渡せば国家間での不安定要素もあり、多くの企業で活動が制約を受ける状況が続いております。コロナ以前に出来ていたことが出来ないという閉塞感は皆さんも感じていると思います。その中で今だからこそ未来を見つめ、そして感じ、一步踏み出すことは冒険であるかもしれませんが大切なことと感じています。

コロナ後の世界が、どのような状況であれ、人も会社も持続可能な方向を考えることが重要です。始まりがあれば、終わりがあります。いつかコロナウイルスも普通の感染症になる時がきます。

日々生活している当たり前に見えることは、実は奇跡の積み重ねであることを忘れないようにしたいですね。

生命が誕生してから現在まで生きとし生けるものは種を守るために存在しています。人だけが食物連鎖の頂点に立ち自由気ままでいるように感じます。今後、人より強いものが現れた時に人々は本当に国家や人種、宗教を超えて一体となり立ち向かえるのか、地球さえ守れないことを思うとはなはだ疑問が残るところです。

しかし、人々は身近なところから様々なアイデアを創出し、地球を守るために行動を起こしています。SDGsも大きな行動のひとつです。2030年までに17のゴールと169のターゲットを決めて、国家や人種、宗教の境界をなくし、地球を守ることが、すべての生命を守ることにつながることを明確にしているように個人的に感じています。

LFPIとしても、人が生きていく上で最も重要な水、世界では綺麗な水を飲むことができない人々があります。小さな行動になるかもしれませんが、協会の中で話し合う機会、学ぶ機会があれば良いのではないのでしょうか。未来は見えなくても、『地球上の誰一人取り残さない』という言葉信じ、人だけでなく地球上のありとあらゆる生きとし生けるものを守ることが出来れば、とても素敵な未来が現れると信じています。多くの活動の中で、一番求められていることは人としての在り方です。

日々、何をしたいのか、それは何のためにするのか、それは自分にとって、また周り(環境)にとって、どのような影響があるのかを、少しでも考えながら行動することが大切です。

SDGsが、人の在り方についても考える機会であってほしい。取り留めのない話になりましたが、『人は何のために存在しているのか?』。今回の感染症は、人々に警鐘をならしているように感じます。

晃栄産業株式会社

理事

佐藤 一彦

技術者養成セミナーと実験講座

テーマ：凝集処理の基礎(講演と実習)

日時：2021年8月4日 13時00分～17時00分

場所：安積濾紙株式会社、オンライン併催(交流会無し)

参加者：22名(うち現地9名)

【目的】

凝集に関する化学工学理論及び実務での凝集剤の使用方法を学ぶ。実習では実際に使われている凝集に関する各種測定や装置を見て知見を深めることを目的とする。

【内容】

講演1 凝集の基礎

講師：大阪工業大学 笠原 伸介 教授

凝集について理論的解説がされた後、凝集のパターン、フロック形成、沈殿、ろ過と、凝集剤投入からろ過プロセスに至るまでの一連の粒子の動きが理解できる内容でした。

講演2

講師：多木化学(株) 中尾 勇佑 様

凝集剤メーカーの多木化学(株)の講師を招いた講演であり、凝集剤の分類、無機凝集剤、高分子凝集剤のそれぞれの役割、無機凝集剤での凝集の理論などの基礎的な内容から、ジャーテスト、注入量、pH、攪拌速度、凝集剤の種類と使い方など実務的な内容まで、凝集剤の全般的な知識が得られる内容でした。

実習1 凝集試験(凝集の原理)

講師：大阪電気通信大学 田中 孝徳 講師

凝集の理論について講義があった後、懸濁液に性質の異なる3種類の塩を濃度を変えて投入する実験を行い、凝集の様子が異なることを学びました。

実習2 凝集試験(ジャーテスト)

講師：多木化学(株) 中尾 勇佑 様

実際のジャーテスターを使い凝集剤の投入とフロック形成の様子を観察しました。また、簡易濁度計による濁度の測定も行い凝集効果を数値で確認することを学びました。

実習3 凝集剤供給機の実演

講師：(株)トーケミ 瀧本 良平 様

トーケミ製空気エゼクター型供給機「TAF2」を用い、粉体凝集剤の供給について実際の装置と動きを見て学びました。

【所感】

昨年度は新型コロナウイルス感染症の流行により中止を余儀なくされ、今年度は担当者、内容共にそのままスライドさせて開催しました。今回は現地参加とオンライン参加の併用にて準備を進めましたが、開催2日前から大阪府に緊急事態宣言が発令され、オンラインのみに切り換えるかぎりぎりの判断を迫られました。現地参加希望者の変更希望もなかったことから、感染対策をしっかりとした上で併催での開催を決めました。

今回、私は運営側としてオンライン配信のカメラを担当していました。凝集の様子を映すのは非常に難しく、カメラから画面共有をOFFにすることができなかつたため、移動時の画像も配信されてしまうなど、オンライン参加の皆様には見苦しい画像となったかと思えます。どう配信されているか不安な中、石川委員長がオンラインで入っておられ、随時電話にて助言をいただけたことは助かりました。

今回はオンライン併催という初めての試みでしたが、参加者は22名とここ5年間で最高の人数になりました。現地参加のみでは参加が難しかった遠方の方々にも参加いただけたのは良かったと思えます。現地参加された方には生で実験をしていただけて、より理解が深まったのではないのでしょうか。また、交流会が無い代わりに名刺交換の時間を設けたので、多少なりとも参加者、講師の方々とのネットワーク作りにも貢献できたのではないかと思います。あとは、一刻も早く新型コロナウイルス感染症が収束し、交流会を通じた情報交換ができる日が来ることを祈ります。

最後に、今回講師を務めていただいた皆様、リーダーとしてご尽力いただいた(株)トーケミの瀧本様、会場を提供いただきました安積瀧紙様、スタッフとして協力してくださった方々に感謝の意を表します。

〈ユニチカ株式会社 中央研究所 小野 貴博〉



講演1 凝集の基礎



講演2 無機凝集剤について



実習1 凝集試験(凝集の原理)



実習2 凝集試験(ジャーテスト)



実習3 凝集剤供給機の実演

青年部会講座

テーマ：ワークショップ ～失敗しないプレゼンテーションを学ぶ～

日時：2021年8月19日(第1～3部)、8月24日(第4部)

方式：WEB開催(ZOOM)

参加者：11名

【内容】

第1部 参加者によるプレゼンテーション

参加者に事前配布した参考図書を購読のうえ、自由なテーマでプレゼンテーションを行いました。今回はZOOMを用いての講座開催になり、録画機能で撮影したプレゼンテーションを初日終了後、参加者同士の採点シートと併せて配布を行って振り返りのきっかけ作りも行いました。

第2部 プレゼンテーションの基礎講座

講師としてお招きしたLFPI所属アドバイザーの澤田様よりご講義いただきました。スライドの文章や文字数、発表時の心構えや目線の配り方、雰囲気作りなど、総合的なプレゼンテーションのスキルを学習しました。

第3部 グループごとの意見交換

参加者を3～4人のグループに分け、意見交換を行いました。それぞれのプレゼンテーションについて、前述の参考図書の内容や、第2部の基礎講座で学んだことから少人数で意見交換を行いました。

第4部 修正版プレゼンテーション

初日の第1～3部で参加者が自身の発表を見つめなおし、ワークショップ2日目に再度発表を行いました。プレゼンテーションの冒頭に初日に感じた反省点と修正点を発表する時間を設け、ブラッシュアップされた箇所を周知して再度発表を行い、講師の澤田様、聴講した参加者、青年部会メンバーによる講評を行いました。

【所感】

初のZOOMを用いた試みでしたが、録画機能やグループを分ける機能を活用し、今回ならではのワークショップとして形にできたと思います。また、参加者もSDGsのような難しいテーマをわかりやすく解説する方、趣味や好きな食べ物などを生き活きと発表する方など皆さん素晴らしく、本講座にご参加いただけたことに厚く御礼申し上げます。

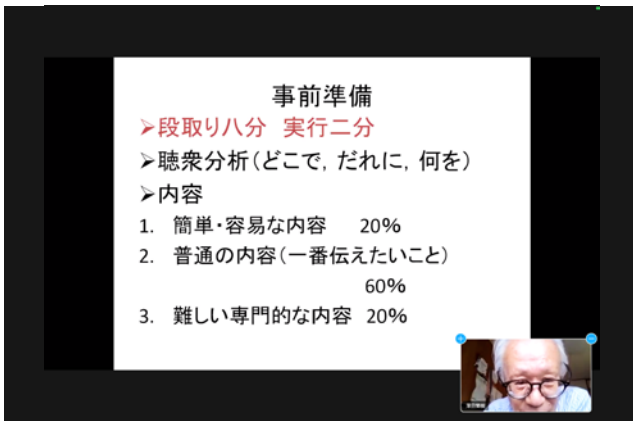
〈森永エンジニアリング(株) 環境技術部 今井醇〉



聴講中の皆様の様子



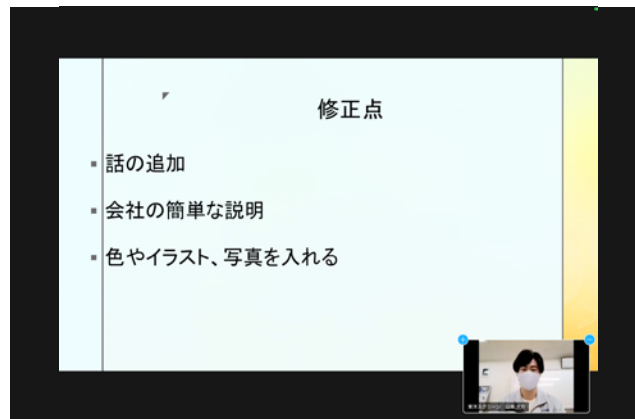
セミナー運営中の様子



講師の澤田様の講義



参加者の発表



講座から得たプレゼンテーションの反省点の発表

オンライン基礎実験セミナー

テーマ：製膜・膜の評価(バブルポイント法・FI値測定等)

日時：2021年9月16日 13:00～17:00

方式：WEB開催(ZOOM)

参加者：21名

【内容】

テーマ1 製膜

膜の基礎知識から製膜方法の種類、それぞれの特徴及びメリットデメリット、製膜時の孔径の制御方法等を講義でご説明いただきました。相分離法や延伸法およびトラックエッチング法等のいくつかの多孔質膜の製膜方法から、相分離法、更の中からはNIPS法を用いた製膜に関するいくつかの実験操作を動画で学びました。動画では、ポリマー溶液を垂らす際に自動塗工機を使用する方法と、テープを巻いたガラス棒を使用する方法の両方の作業を行い、同じ工程でも機械と手作業の違いによって出来上がりに違いが見られることを確認しました。また、作業手法の違いのほか、異なる凝固浴に浸漬した場合に、固化の速度や出来上がった膜の厚み、仕上がりに違いが見られ、均一な膜の作製には薬剤の選定が重要であることを学びました。

テーマ2 膜の評価(バブルポイント)

フィルターの構造例をはじめ、それぞれの特徴や作られ方、用途等の説明から、膜の細孔径の評価方法について講義でご説明いただきました。膜の細孔径の評価方法には、指標菌、粒子を用いた試験とバブルポイント試験の3種類があり、バブルポイント試験では、使用するフィルターの種類によって2種類の測定方法があることを学びました。そのうち、より幅広い孔径の評価が可能な測定方法について、バブルポイント試験の一連の実験操作を動画で確認をしました。動画では孔径の異なる膜や、親水性、疎水性の膜、更にわざと傷をつけた膜を用いた様々な条件でバブルポイント試験を実施し、その結果の比較を行いました。全部で8条件程の検討から、膜の材質や孔径、状態によって空気が出る時間や、バブルポイント圧に差が生じることが確認できました。

テーマ3 膜の評価(FI値測定等)

逆浸透膜をはじめとする膜の基礎知識から、膜処理の前処理方法及び、前処理の効果の評価方法についてご説明いただきました。前処理の効果の評価方法は、一般的に使用されているSDI(FI)に加え、SDIと同等の汚染評価手法であり簡潔に評価が可能であるMFFについて、評価及び算出の方法をご紹介いただきました。

動画では、水道水を用いたSDI(FI)の測定方法、模擬水を用いたMFFの測り方の手順を器具の使い方や実験時の注意点なども併せて学びました。SDIは装置や手順が少し複雑で手間がかかりますが、MFFは特別な器具等がなくても簡単に同様の評価が可能であることが動画を通じてよく分かりました。また、様々な濃度の模擬水を用いてMFFを算出した結果から、MFFは濃度が高くなるほど算出値も高くなることが確認できました。

【所感】

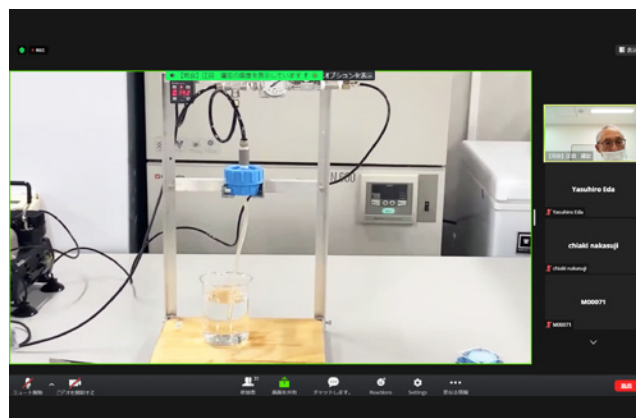
オンラインでの実験講座に参加するのは初めてでしたが、実際に手を動かす作業がない分、講義の内容を思い出しながら1つ1つの操作を集中して観察することができました。同じ実験でも条件を変えていくつも実施することや、装置が大掛かりなもの、手間や時間がかかる実験等も、スムーズに手順や結果を知ることができることは今回のようなオンライン方式ならではのメリットだと感じました。

また、今回の3つのテーマを通じて、製膜、膜の孔径の評価、実際に膜を使用した水質の評価と、膜を作るところから実際に使用するところまで、膜に関する幅広い知見を得ることができました。普段膜を扱う仕事をしておりますが、普段の業務では取り扱うことのないテーマにも触れることができ、貴重な機会となりました。ありがとうございました。

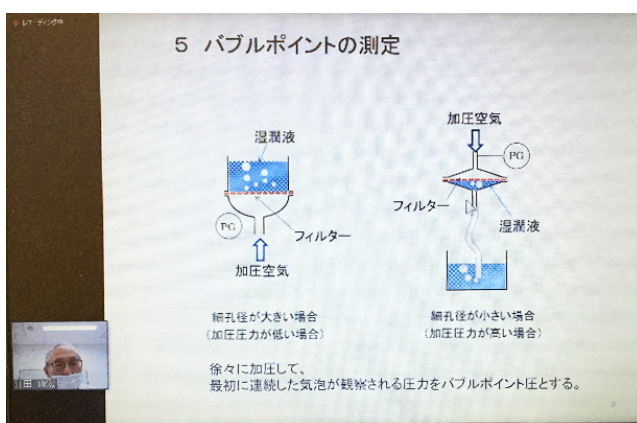
〈三菱ケミカルアクア・ソリューションズ(株) 技術統括室 秋津研究センター 岡 優花子〉



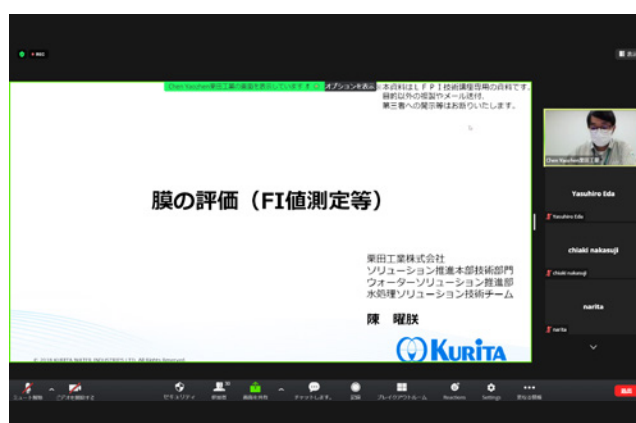
テーマ1 製膜 小野様



テーマ2 膜の評価 (バブルポイント法) 柚木様 実験動画



テーマ2 膜の評価 (バブルポイント法) 柚木様



テーマ3 膜の評価 (FI値測定等) 陳様

企業紹介 株式会社セイシン企業

当社は1968年(昭和43年)に、光透過遠心沈降式粒度分布測定器「ミクロン・フォト・サイザー」を世界で初めて世に送り出し、その後、広い分野のお客様からのご指導やご協力を糧として、粉体物性測定器、精密ふるい分け機などを次々と開発し、更に全自動ふるい分け測定器ロボットシフターをはじめ、全自動粉体物性測定器オートマルチテスター等を開発致しました。

また、粉体加工機械分野では、気流式粉碎機「ジェットミル」や気流式乾燥機「フラッシュジェットドライヤー」、造粒機、混合機、分級機、付着粉体払い落とし装置など、あらゆる「粉を造る」ための先端装置を開発して参りました。

長年にわたる技術革新と、粉とのふれあいを通じて、机上の理論通りには行かない実際の粉粒体ハンドリングの膨大なノウハウを蓄積して参りました。お陰様で現在では、お客様のあらゆるニーズに対応できる「粉粒体技術のプロ」として絶大なご信頼を頂く粉体機器メーカーに成長致しました。

近年は弊社の粉体技術を駆使し、BetterSeishinのブランドの通り「よりベター」な機器の開発に努力すると共に、受託粉碎・乾燥・分級・造粒といった粉体の加工業務や各種測定業務を工業分野だけでなく、食品分野にも提供しております。さらにインライン・オンライン測定機器によるリアルタイム測定を活用した生産工程の安定化、5K作業や人員の削減などに貢献しております。

当社はLFPIが行っている液体清澄化技術には直接関係していませんが、ろ過材や凝集剤など、水処理に関連した材料の製造、評価などの分野で携わっております。LFPIを通じて様々な企業との技術交流を増やし、液体清澄化技術の発展、粉体関連技術の発展に貢献できればと考えております。粉体加工設備、測定機器は種々、テスト機を取り揃えておりますので、ご興味をお持ちの際は、遠慮なく御連絡いただければと思います。

〈株式会社セイシン企業 稲葉 敬三〉





技術委員のつぶやき話(その46)

日本大学 理工学部 土木工学科 吉田 征史

＜視点が変わると見えてくるもの＞

「視点を変えると見えてくるものが変わる」とはよく使われる言葉であり、誰しもが聞いたことのある言葉だと思いますのでいまさら講釈するつもりはありませんが、それを“実感するきっかけ”は人それぞれかも知れません。同じ経験の方もいらっしゃるかも知れませんが、私の場合は「世界地図」でした。小学生の頃、社会の授業は教科書よりも資料集が好きで、図1のような日本列島が中央にある世界地図をよく見た記憶があります(40歳を越えた著者の体験なので若い人が小学生の頃の資料集と違うかも知れませんが)。そして高校生の時、夏休みを利用した短期ホームステイで行ったオーストラリア(パース)の本屋さんで図2のようなオーストラリアが中央にあり、上下逆さの地図と出会いました(その時は買わず、大人になってからホストファミリーを訪問した際に買おうとしましたがその時は見つからず、数年後にふと思い出してインターネットで調べたら、南半球の国のお土産屋さんによくあるようです。著作権フリーの画像が見つからなかったのでフリー画像の図1を加工した図2を載せますが「Upside Down World Map」で検索すると今どきはAmazonでも売っているようです)。なお、図3は世界標準的な視点の世界地図ですが、こちらだと南米大陸の東岸とアフリカ大陸の西岸はつながっていたというWegenerの大陸移動説の着想点に分かりやすく見えます(図1では分かり難いですよ。また地球儀の良さにも気付かされます)。

無理やり話しをつなげますが、いま大学ではオンライン授業が行われています。本学は学生数も多く、東京都千代田区に位置するため、特にCOVID-19の影響を受ける大学の一つかと思います。令和2年度前期は完全オンラインでしたが、7月末から卒研究生や大学院生は研究のための入構可になり、その後、Zoomミーティングと接続して教室を配信できるカメラの新設や、机に間隔を空けて貼られたQRコードを学生が読み込むことで着席位置を記録する仕組みで対面とオンラインのハイブリッド化、オープンキャンパスもグリーンバックを使った仮想スタジオから生配信など、この1年半で目まぐるしく新たな試み(視点)が増えました。オンラインも慣れてくると便利な面も多いですし、オンライン授業の録画データでいつでも復習できるため、学生によってはコロナ前よりも理解しやすいという意見もあります。とはいえ、オンライン科目が多い学年は大学に行きたいという意見もありますので、オンラインの良いところを活用した新しい形での対面が主になる日を待っています。

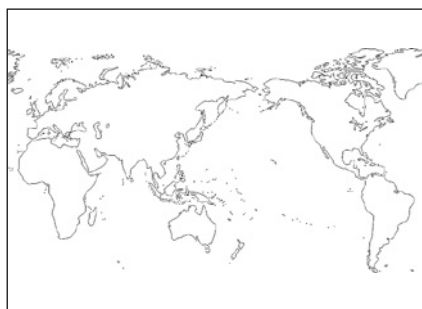


図1 日本の初等教育でよくある視点

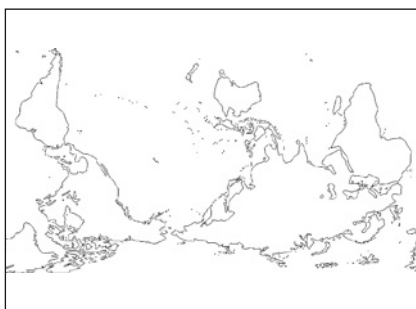


図2 南半球の本屋さんで見た視点



図3 世界で広く使われる視点

情報アレコレ

広報委員会がちょっと調べてみました

第23回

山について

山に親しむ機会を得て、山の恩恵に感謝することの趣旨で山の日が2014年に制定されて7年になります。今年はオリンピックの関係で8月8日となりました。今回はそんな山について調べてみました。

山の呼び方は種類が多い

川はほとんどが「〇〇川」ですが山の場合「〇〇山」「〇〇岳」「〇〇峰」「〇〇嶺」「〇〇嶽」など様々な表し方があります。

「山」は平地よりも地形として高く盛り上がっている場所のことで「岳」は山が連なっている場所のうちの頂上の一つを指していることが多いようです。「峰」も似ていますが、尾根の突き出した部分で頂上の高いところを示すことが多いようです。

呼び方も様々あり「〇〇山」も「〇〇ヤマ」や「〇〇サン」「〇〇ザン」、他には「〇〇セン」「〇〇ゼン」という呼び方もあります。呼び方を研究している放送文化研究所の調べによると『全国市町村名の読み方』にはのべ302の「〇〇山」があり「ヤマ」と読むものが130、「サン」が100、「ザン」が59、「セン」が6、「ゼン」が7となっています。「ヤマ」が多い結果ですが「サン、ザン」を同じと考えれば「〇〇サン」が優勢となります。

「山容」という言葉があるように、山の姿、形、存在感、生活との結びつきで呼び方が変わるのかもしれませんが、「〇〇ヤマ」と聞くと何となく小さめのなだらかな姿を思い浮かべますし、「〇〇ザン」は大きくて険しい印象を受けます。

昔話に出てくる山で「カチカチヤマ」など「ヤマ」が多いのはこのような語感からくるのが影響しているのかもしれませんが、「ザン」は厳冬の青森霊場 恐山「オソレザン」などの印象が強いかもしれません。

日本には昔から、山を神聖なものとして信仰の対象とする山岳信仰があり、修験道の修業の場として崇拝されてきました。信仰対象となった山は「〇〇サン」「〇〇ザン」、信仰の対象とならなかった山は

「〇〇ヤマ」と呼ぶ説があります。確かに日本仏教の主な総本山は、比叡山(ヒエイザン)、高野山(コウヤサン)などがあり説を裏付けていますが、古くから信仰の対象であった浅間山(アサマヤマ)立山(タテヤマ)等の例外もありはっきりしません。

日本人と富士山

標高3776m、日本一の高さを誇る独立峰富士山。その姿の美しさだけでなく、噴火という荒ぶる一面をももつことから、古くから神の住む山として、畏れ、崇められ世に二つとない霊峰とされてきました。ご神体は山そのもの、今も富士山8合目より上は富士山頂上浅間大社奥宮の境内地とされその山頂に浅間大神(あさまのおおかみ)が祀られています。古くは遠くから仰ぎ見るだけの存在であった富士山は、平安時代後期以降になると修験道の道場になり、登拝する山へと変化。更に修験者だけでなく次第に一般庶民も登拝するようになり富士登山は大衆化。2013年にはユネスコ「世界文化遺産」に登録され日本人の自然観、文化観が国際的に認められ、世界の富士山となり現在へと続いています。

コロナ禍の中、他県をまたぐ移動が難しいですが、早くコロナが収束して自然の中できれいな空気を一杯取り込んで山を眺めてパワーを取り込みたいものです。

日本のふるさと富士

- 蝦夷富士(羊蹄山) 標高1,898m 北海道
- 津軽富士(岩木山) 標高1,625m 青森県
- 榛名富士(榛名山) 標高1,449m 群馬県
- 八丈富士(西山) 標高 854m 東京都
- 伯耆富士(大山) 標高1,729m 鳥取県
- 薩摩富士(開聞岳) 標高 924m 鹿児島県

〈森永エンジニアリング株式会社 植野 聖視〉





私たちも頑張ってます!

～若手社員の仕事風景～

株式会社クボタ



お客様と同じ目線で 改善に取り組んでいくこと

膜システム部 阪口 遼

当社の水関連事業は、1890年創業時の水道用鉄管の製造から始まり、現在では、地震に強い耐震型ダクタイル鉄管や水不足を解決するための水の再利用技術などを通して、浄水処理から排水処理まで水インフラの幅広い分野で事業を行っています。当社が扱っている排水処理技術に膜分離活性汚泥法 (MBR) がありますが、これは活性汚泥と呼ばれる微生物群に汚濁物質を分解させる、従来の活性汚泥法の沈殿プロセス (固液分離) に膜分離装置を用いる方法です。MBRには「排水処理施設の省スペース化」、「より清澄な処理水の精製」、「運転管理の容易さ」といった利点があります。

私が所属している膜システム部では、MBRに用いる膜分離装置である「液中膜」の製造・販売を行っています。その中で、私は営業技術の立場で、主に東南アジア・南アジア地域のお客様に向けて、現地の排水処理施設に当社の膜製品を採用していただくための提案活動、およびその後の施設の詳細設計、製品の据付、運転・維持管理などのサポートを行っています。

提案活動業務においては、それぞれの排水処理施設の排水量、敷地面積、排水水質など、各案件で考慮すべき条件は大きく異なります。そのため、お客様とのコミュニケーションを通して情報を整理し、各案件で可能な限り最適なソリューションを提案できるよう心がけて、業務に取り組んでいます。

また、運転・維持管理面でのサポート業務においては、実際に現地に訪問させていただく機会があります。その際、お客様の設備全体や製品の使われ方を直に見ることができるので、提案活動だけでは得られない刺激があります。

これまでの仕事で印象的なのが、マレーシアの民間工場での運転方法・設備の改善に携わったことです。すでに別の現場でも製品をご使用いただいているお客様の現場でしたが、私が関わった当初は不具合の原因の特定ができていませんでした。そこで実際に現地の施設を訪問し、活性汚泥の状態やメンテナンスの方法・頻度など、関係者と一緒に調査し、そこで得られた情報を基に、運転方法やメンテナンス設備の改善案をまとめて、関係者と話し、納得しながら改善を進めていくことができました。それにより、実際に現地に訪問して、関係者と議論しながら、改善に取り組んでいくことの大切さを実感しました。

コロナ禍で難しいこともありますが、今後も可能な限り現地に赴き、お客様の実際の声を聞いて、その課題解決にチャレンジしたいと思っています。その過程で、自分の知識や能力をさらに伸ばさせていきたいと思っています。



私たちも頑張ってます!

～若手社員の仕事風景～

大洋産業株式会社



水を仕事にする魅力、やりがい。

営業技術課 ヴーティガン

当社はプラント配管、機械加工・組立、水処理装置の製造を行っております。

私は2020年4月に入社し、水処理装置・設備を製造する部署に営業技術職として配属されました。

その装置製造の営業、設計、お客様にお渡しするまでを担当しています。

弊社の製造装置は、フルカスタムオーダーメイドで1品1様なので、多くの種類の装置に携わるため、幅広い知識や技術が要求されます。そのため、水処理で使われている多様な機器に対する知識やノウハウの習得は、業務を進める上で欠かせません。

「水処理装置・設備」と言っても、お客様のご要望によって様々です。

ご要望に沿えるように、必要な機器の仕様を確認して、それに合った機器を選定し、機器の配置や配管の通る場所などの詳細レイアウトを検討しますが、全ての事を網羅することは難しいので、経験豊富で装置製造のノウハウを持つ先輩方に日々サポートしていただいています。

先日、私が担当した水処理装置の案件では、特殊な溶剤を流すため適切な材料の選定や、高圧配管や低圧配管の設計手法など先輩方と一緒に検討を重ねて装置を完成させました。

このように当社のキャッチフレーズである“お客様の「こうしたい」を実現します。”を実行できるように、お客様や同僚たちと丁寧にコミュニケーションを重ねることが装置完成の肝となるため、社内外問わず積極的なコミュニケーションをとることを心掛けています。水は人々の生活に重要な役割を果たしていますので、水に関わる水処理装置に関係する知識やノウハウの取得に今後も努めていきたいと思っています。

チャレンジ精神を持っていれば、社内でもできることも増えてやりがいにつながります。

私は水処理に対して「堅い」というイメージを持っていましたが、今では想像した以上に新しいことに挑戦していると感じています。

ユーザー会員としてLFPIに望むこと

弊社は「お～いお茶」をはじめとして、充実野菜、TEAS' TEA、TULLY'S COFFEEなど、商品企画から製造、販売まで行う総合飲料メーカーです。1984年に「お～いお茶」の前進である「缶入り煎茶」を開発して以来、1990年には、世界初のペットボトル入り緑茶飲料の開発に成功するなど、無糖飲料市場を開拓してきました。LFPIへは飲料製造時の抽出水や品質向上のための濾過技術などに関する情報収集を目的として、ユーザー会員として加入したと聞いております。私自身は昨年参加したばかりで、LFPIの活動の全容については、まだまだ知らないことも多いですが、期待することを述べたいと思います。

ユーザー会員数を確認すると、全会員数112に対してわずか6社と非常に少ないという現状があります。専門家が集う多くの学会や研究会でも同様の傾向が見られるようです。清澄化技術に関する非専門家が多いユーザー企業にLFPIへの積極的参加を促すには明快なメリットが必要ですが、若手の技術者が

- ユーザー企業がLFPIへ参加するメリットは何？
- 他の団体と異なる(他の団体にはない)メリットは何？

と非専門家の方々に問われたとき、明快に説明できるかと言われるといかがでしょうか？ なかなか難しいと思います。

非専門家の理解を得るには、LFPIの活動およびコンテンツのユーザーにとっての有用性、LFPIの活動領域とユーザー企業の活動の関係の明確化などが重要です。LFPIの長い歴史の中で蓄積されてきたコンテンツは宝の山です。例えば、LFPIの活動およびコンテンツの有用性を示すために、「講習会テキスト閲覧」、「基礎実験講座の動画配信」を一部会員外にも広げる枠組みはどうでしょうか。特に、ユーザー企業の技術教育を担う目的で、チュートリアル等のコンテンツを活用してさらなる教材の充実を図りアピールするのも一つと考えます。せっかくのコンテンツを眠らせることなく、知って体験してもらうことが重要です。

今後は、アカデミア、専門企業、ユーザー企業など清澄化技術に関わる多岐にわたる分野の技術者が一堂に会し、高いアクティビティを持って活動していることを特徴としてますます発展できますよう、広報委員として微力ながらお手伝いできればと考えております。

〈株式会社伊藤園 一谷 正己〉



会からのお知らせ

★「第25回定時総会」のご案内

期 日：2021年10月27日(水)
14:30～17:20

会 場：アルカディア市ヶ谷(私学会館)
(JR線、地下鉄 市ヶ谷駅 徒歩2分)

お申込み期限：10月13日(水)

※ Webでのご参加も可能です。

申込はHP又はメールで受付けています。

HP：https://www.lfpi.org/event/new/



メールアドレス：lfpi_03@lfpi.org

総会終了後『パフォーマンスをあげる「食事の軸」の作り方』と題してロバスト株式会社代表、村山彩様による特別講演を予定しています。

奮ってご参加下さい。



著書に『あなたは半年前に食べたものでできている』『あなたは半年前に食べたものでできている 実践編』『やせる冷蔵庫』『豆皿しあわせレシピ』『まずはこの17食材を。『いつもの食事』で健康になる』等がある。

★バナー広告のご利用されましたか？

会員特典の活用：製品・企業認知度アップ！
会員・閲覧者皆様へのご紹介に最適



こちらから

効果：コンタクト作り

- ・会員企業様
- ・一般のビジター

リンク：詳細とお申込み

https://www.lfpi.org/ad/



編 集 後 記

オリンピックの期間は暑い夏でしたが、その後は線状降水帯が日本列島に居座り、農作物への影響も心配されるほどの長雨豪雨が続き異常気象となり、各地で災害が起きました。コロナウイルスも変異株やワクチン接種が進む中でも各地で感染者数の増加が続いています。少しでも早く感染者数が落ち着くことを祈ります。今まで常識と思っていたことを改め直し、幅広い視点や考え方から危険予知、安全判断をしていかなければならないと感じています。また、テレワークやWebツールも少しずつ慣れてきていますが、コロナ後もこのようなWebツールは

発展し、色々な利用価値が見いだされ幅が広がってくると感じしており、自分たちにも変化を試されているような気がします。

LFPI会の活動行事は中止や延期が続いており広報活動やニュースレター記事も苦労してきましたが、徐々にWeb講習など活動を再開してきています。LFPIニュースレターは年4回(春・夏・秋・冬)と発行しており、この秋号は97号、そして来年には100号を迎えることとなり長い歴史を感じます。広報委員も歴史を引き継ぎながら取り組んでまいります。早くコロナが収束し新しい活動が行えるようになることを願います。

LFPI会員の皆様も会の一層の発展の為、様々なLFPI活動にご協力、ご参加のほどよろしくお願いたします。

(森永エンジニアリング株式会社 植野 聖視)

◆ 編集／発行：日本液体清澄化技術工業会 広報委員会 ◆ 住所：〒532-0021 大阪府大阪市淀川区田川北1-12-11
◆ TEL：06-6308-1011 (株)トーケミ内 安達 FAX：06-6308-1099
◆ LFPIホームページ http://www.lfpi.org